SONRISA

そんりさ vol.166

AMLO津波的勝利の後には

AMLO/MORENA の津波的勝利（Víctor Solís の風刺画）

02	メキシコ選挙 AMLO/MORENA　津波的勝利の後には	……小林　致広
07	和平合意から 2 年、紛争下に生きてきた先住民族の現在	……柴田　大輔
11	ルシア・ディアスさん招聘イベントの報告	……山本　昭代
15	ラ米百景　クーデターから 45 年、傷口疼くチリ	……伊高　浩昭
16	ペルー音楽　クンビア音楽の進化系	……水口　良樹
18	ムネちゃんの LA 情報拾い読み・斜め読み	……小林　致広

2018 年 10 月 13 日　日本ラテンアメリカ協力ネットワーク（RECOM）発行

2018 年メキシコ選挙

AMLO/MORENA　津波的勝利の後には

小林　致広

AMLO/MORENA の津波的勝利

7 月 1 日、メキシコ各地で選挙（大統領、国会、州知事・議会、行政区）が実施された。大統領選に関しては、最初の開票速報（開票率 0.01%段階）で、国民再生運動（MORENA）・労働党（PT）・社会的出合い党（PES）の政党連合『ともに歴史を作ろう』が擁立したアンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール（以下、AMLO と略）の得票率は 45%と発表された。この報告を受け、国民行動党（PAN）・民主革命党（PRD）・市民運動（MC）擁立のリカルド・アナヤ、制度的革命党（PRI）・メキシコ環境緑の党（PVEM）・新同盟（PANAL）のホセ・アントニオ・メアデの両候補は、早々に AMLO 勝利を認め、敗北宣言を出した。

2017 年 12 月以降に実施されたアンケート調査の大半において、AMLO 支持率は首位を独走し、投票直前には 50%近くまで拡大し、AMLO 勝利はほぼ確実視されていた。AMLO は、約 5,600 万の投票者（投票率 63.4%）のうち 3,000 万余（53%）を獲得し、1982 年以降で初めて得票率は過半数を超えた。危惧されていた票数の不正操作などでは到底覆すことのできない大差がついた AMLO の津波的な勝利だった。

国会議員選挙でも、MORENA・PT・PES ブロックは津波的勝利を収めた。8 月下旬、選管が示した比例区分の議席割り当ての結果、下院の MORENA 当選者は 191 名（選挙区 106＋比例 85）に達した。一方、得票率 4%弱だった PT は 61 議席、得票率 3%未満で国政政党資格を喪失することになった PES は 56 議席を獲得することになった[1)]。

「歴史を作ろう」vs 「歴史以前（PRIHISTORIA)」
Rocha の風刺画【La Jornada, 2018 年 7 月 2 日】

2018 年大統領・国会選挙

政党	大統領	下院					上院	
	得票率	得票率	選挙区	比例	当選	議席	当選	議席
MORENA	AMLO	37.2	106	85	191	255	53	**59**
PT	53.2	3.9	58	3	61	28	6	**6**
PES		2.4	56	0	56	30	8	**5**
PAN	アナヤ	17.9	40	41	81	79	23	**24**
PRD	22.3	5.3	9	12	21	20	8	**6**
MC		4.4	17	10	27	28	7	**7**
PRI	メアデ	16.5	7	38	45	47	13	**15**
PVEM	16.4	4.8	5	11	16	11	7	**5**
PANAL		2.5	2	0	2		1	**0**
無所属						2		**1**
			300	200	500		128	

当選：選管最終報告の数値、議席：9 月 13 日時点の所属

一方、旧来の主要 3 政党（PRI/PAN/PRD）は大幅に議席を減少することになった。下院の PRI 得票率は 16%で 45 議席（8%）となり、第 3 勢力に後退した。得票率 18%弱で 81 議席を確保した PAN は第 2 勢力にとどまったが、議席占有率は 21%から 16%へと減少した。2014 年の MORENA 結成で大幅に弱体化してしまった PRD は 21 議席（4%）で第 7 勢力に後退し、代わって 27 議席の MC が第 6 勢力に浮上した。また、選挙期間中は PRI と連携していた PVEM は、下院の得票率 5%弱で 16 議席となり、選挙前の第 4 勢力から、第 8 勢力へと大きく転落した。

8 月 29 日の下院議会の開催日、PT と PES の議員の半数近くが MORENA に所属を変更し、MORENA の議席は 247 に増加した。さらに、上院会期冒頭で比例区当選の PVEM 上院議員マヌエル・ベラスコ・コエーリョが、チアパス知事の残り任期（11 月末）を勤めると

注 1）政党連合「ともに歴史を作ろう」候補の当選者の名目的所属を MORENA:PT:PES で、2：1：1 で配分するため、実際の得票率と大きく異なる議席数になる。

して辞任届を提出した。この辞任届の承認をめぐる裏交渉の過程で、下院の PVEM 所属の議員 5 名が MORENA に鞍替えした[2)]。

MORENA への鞍替えはさらに進行し、PT 議員 4 名も MORENA に移籍し、9 月 13 日の時点で、MORENA は下院で 256 名と絶対多数（過半数）を占める勢力となった。選挙前から協力関係にあった PES と PT だけでなく、11 議席に減少した PVEM や MC も協力を申し出て、政権与党となろうとしている。

地方選挙の動向

MORENA・PT・PES ブロックは、大統領選挙においては、グアナフアト州を除く 31 州で勝利した。一方、国会議員選挙（上下院）においては、コアウイラ、ヌエボ・レオン、タマウリパスなど北部の州、サンルイスポトシ、ケレタロ、グアナフアト、アグアスカリエンテス、ハリスコなど工業地帯のある中部の州、ならびにユカタン州などでは、PAN や PRI のブロックも一定の議席を確保している。

また、9 州で行われた知事選挙では、PRD 系が前職だったタバスコ、モレロス、ベラクルス州とメキシコ市、ならびに PVEM が州知事だったチアパス州の計 5 州で、MORENA ブロックが勝利したが、津波的勝利とは言えなかった。グアナフアト、プエブラ[3)]、ユカタンの３州では PAN が勝利し、ハリスコ州では MC が勝利した。選挙前に知事職を確保していた PRI はユカタン州とハリスコ州で敗北した。

下院の選挙区議席（300 議席）

上院の選挙区議席（32 議席）

また、全国 24 州の約 1,600 行政区では首長選挙が実施された。地域の政治・経済的利害関係が複雑に絡み合う行政区首長選挙では、暴力的な対立も少なからず発生した。ナルコに代表される組織犯罪集団が暗躍するオアハカ・ゲレロ・ミチョアカン・ハリスコ州など太平洋岸の諸州では、極めて血生臭い選挙戦が展開したとされる。

2017 年 9 月～2018 年 7 月 1 日までに、774 件の暴力事件が発生し、うち 152 件（約 2 割）が殺人事件だった。この数値は 2012 年の選挙時（9 件）の 15 倍に達し、米州機構選挙監視団は「LA でも類のない」異常事態と指摘している。殺人に関しては、連邦レベル 2 件、州レベル 26 件に対し、行政区レベルのものが 107 件（約 8 割）と圧倒的に多くなっている。

その内訳は、首長候補予定者 28、首長候補 20、政党活動家 20、元首長 15、現首長 8 となっている。州別では、ゲレロ州 14、ミチョアカン・オアハカ・プエブラ州各 5、メキシコ・ハリスコ州各 4 となっている。また、全国選挙庁によれば、危害が及ぶことを怖れ立候補を辞退・交替した人数は 5,700 名に達し、多くは殺人事件の多かった上記の州と重なる。

選挙期間中の選挙関係殺人

州名	総数	首長	州名	総数	首長
ゲレロ	29	14	グアナファト	4	3
オアハカ	27	5	タマウリパス	4	0
プエブラ	15	5	イダルゴ	4	0
ミチョアカン	13	5	コリマ	3	1
メキシコ	12	4	キンタナロー	3	1
ベラクルス	8	0	シナロア	3	1
チワワ	6	2	コアウイラ	3	1
SLP	5	1	その他	9	0
ハリスコ	4	4	全国	152	48

注 2）上院 PVEM 議員団長就任予定のマヌエル・ベラスコの辞任届は一度否決されたが、2 回目の採決で MORENA 議員が賛成（反対６・棄権４）、承認された。ベラスコは任期終了（11 月末）後上院に復帰できる。

注 3）州選管は PAN・PRD 派候補勝利と発表したが、MORENA ブロックの異議申し立てを受け、連邦選挙裁判所は再集計を命令したが、10 月 10 日、州選挙委員会は PAN・PRD 派候補勝利と裁定した。

実現した男女対等割り当ての実情

2014年の選挙法改正による政党候補者の男女対等割り当て制度（paridad de género）の導入後、2回目の選挙となった下院の女性議員数は30議席増加し、243議席となり、女性議員比率は48.6%となった。選挙区では300議席中141議席と47%だったが、比例区では50%の100議席が割り当てられた。初めて男女対等割り当てが導入された上院の女性議員比率は20%弱増加し、49.2%となった。今回の選挙で、国会議員の男女対等割り当てはほぼ実現したかに思われる。しかし、議会の各委員会委員長職に占める女性比率は3分の1にとどまり、議会内の政党議員団の代表・副代表はすべて男性が就任している。

州議会レベルでも男女対等割り当ての原則は徐々に浸透している。州議会に関しては、女性議員比率45～55%の州が16州とほぼ半数を占めている。女性議員比率が70%のモレロス州、60%のトラスカラ州もあるが、サンルイスポトシ・コリマ・メキシコなど6州では、女性議員比率が40%未満にとどまっている。

行政区でも表面上は男女対等割り当てが実施されているが、地域によっては完全に骨抜きになっている。2015年選挙では、チアパス州38行政区の女性首長のうち、12行政区で首長が辞任し、親族男性などが後釜に就任していた。当選した女性候補が辞任し、後任に親族の男性が就任するフアニータ現象は、今回のチアパス州行政区選挙でも起きている。35行政区の女性首長のうち2行政地区の女性首長が辞任圧力を受け、他にも行政区役職者67名が圧力によって辞職しているという。

下院・上院議会における女性議員比率

	2003年	2006年	2009年	2012年	2015年	2018年
下院	23.0%	22.8%	28.2%	37.0%	42.6%	48.6%
上院	16.0%	17.2%	17.2%	32.8%	32.8%	49.2%

先住民選挙区における「非先住民」当選者

	DEI	先住民指定（**ゴチック**は先住民疑念）	
チアパス	5	5	**パレンケ、ボチル、サンクリストバルラス・マルガリタス、**オコシンゴ
オアハカ	7	2	テオティトラン、トラコルーラ
ユカタン	3	2	バジャドリド、ティクル
ベラクルス	3	1	タントルカ
ゲレロ	2	1	トラパ
イダルゴ	2	1	ウェフトラ
SLP	1	1	タムスチャレ

換骨奪胎の先住民選挙区

2017年末、連邦選挙裁判所（TEPJF）は、下院における先住民選挙区(distrito electoral indígena、DEI)の導入を決定した。先住民人口が6割を超える28の先住民選挙区中、13選挙区で先住民を候補者とすること、半数の6選挙区で女性候補とすることが各政党に対して要請された。メキシコの先住民比率（約10%）に比べて、300選挙区中13選挙区という比率（4.3%）は低すぎ、「先住民議席」制度導入を考えるなら、28の先住民選挙区すべてで実施すべきだったろう（9.3%）。TEPJFがその半分以下にした理由、キンタナロー州やプエブラ州を除外した理由などは不明である。

各政党の候補者名簿に対する異議申し立てはなかった。しかし、当選者が確定すると、チアパス州では、当選者が「先住民」資格を満たしていないという異議申し立てが続出することになった。地域の農民組織ARIC指導者であるオコシンゴの当選者を除けば、残り4名は先住民資格を欠落する人物ばかりであった。

PVEM当選者2名はチアパス州政権の役職者で、選挙区で先住民として認知されてはいなかった。PVEM当選者に関する地域先住民の異議申し立てに関しては、州選管は受理したが、TEPJFは受理期間外を理由に却下した。MORENA当選者に関しても、パレンケ地区の当選者はタバスコ州出身のAMLOの従妹で、サンクリストバル地区当選者の母親はツォツィル系先住民、父親はオランダ人だった。

下院には先住民選挙区以外から選出された先住民議員もいる。オアハカ州の先住民族トゥリキのトゥリキ統一闘争運動（MULT）所属の女性二人が選挙区と比例区から当選している。下院の先住民族委員会委員長には、オアハカ州テオティトラン選挙区選出の先住民チナンテカ女性が就任することになった。

政党排除の「慣習的行政区選挙」

政党選挙ではない「慣わしと慣習」に基づく行政区審議会の選出が、1996年以来制度化されていたオアハカ州以外でも実施された。分断を煽る政党の介入を排除した形で行政区役職者を選出する動きは、2011年末のミチョアカン州チェランを嚆矢に、先住民居住地域の各地で試みられてきた。今回、ミチョアカン

オシュチュックで開催の第 2 回先住民の自決権のための全国集会。チェラン、アユートラの代表だけでなく、新政権の先住民問題関係者も（右端のオシュチュック民族衣装の 3 名）

州チェラン、ゲレロ州アユートラ、チアパス州オシュチュックの 3 先住民行政区では、7 月 1 日の選挙を名目に行政区内で政党が選挙活動を行うことは禁止された。チェランでは連邦レベルの投票箱も設置されなかったが、アユートラとオシュチュックでは設置された。

7 月 1 日に先立つ 5 月 26 日、チェランでは 3 回目の統治上級審議会選出が行われ、4 地区から各 3 名の審議委員が選ばれた。7 月 1 日から 2 週間後の 7 月 15 日、アユートラで初めての共同体的行政区審議会の選出が 140 地区の男女代議員によって行われた。オシュチュックでは、慣習的な代表者選出に関する人類学調査が遅れ、行政区選挙は見送りとなった。

これらの事例では、行政区統治は、首長、シンディコ、レヒドールなどの当局者ではなく、審議会の複数メンバーによって担われる。先住民行政区の慣習選挙は、特定支配層や個人への権力集中で起きる公金流用や不正蓄財を防止し、民主的な行政区運営を可能にする先住民自治・自決権の行使であるとみなされている。7 月末、第 2 回「先住民族自決権のための全国集会」がチアパス州オシュチュックで開催された。チェランで開催された 1 回目の全国集会の参加者は、先住民共同体関係者だけだった。しかし、今回は新政権の閣僚や新設の全国先住民族庁長官就任予定のアデルフォ・レヒーノなども参加していた。

権力の座のための連携（野合）

2018 年選挙で大統領の座を確実にするため、AMLO はイデオロギー的には相いれない多様なセクターを陣営に取り込んできた。2018 年 9 月段階で明らかにされた政権閣僚には、左派的テクノクラート、法曹関係者、研究者などともに、大企業家や PRI や PAN の政権で閣僚を務めた政治家もいる。

「PES（魚）と一緒はダメ！」と、抗議するエレナ・ポニアトウスカ

上院候補マリベルの前歯にはかつて所属した政党名

AMLO の政権構想『国家計画 2018–24』の作成責任者で大統領府長官就任予定アロンソ・ロモ・ガルサは、メキシコ有数の巨大バイオ企業の経営者である。選挙戦の中盤になると、世界的富豪カルロス・スリムは「急激な変化がないなら、AMLO で問題なし」と発言していた。彼の示唆する急激な変化とはメキシコ市国際空港拡大事業の見直しを意味し、拡大事業を住民協議にかけるという当初の方針は明言されなくなった。

また、社会開発部門の責任者で公教育相予定のエステバン・モクテスマは PRI 政権において内務／社会開発相を歴任している。公共治安相に就任予定のアロンソ・ドゥラソは PAN フォックス大統領の秘書官を務めていた。閣僚以外でも、元 PRI 内務／公教育相が連邦電気委員会（CFE）、元 PAN 総裁が社会保険庁（IMSS）の責任者に任命されている。

政治姿勢が近い PT との連携は妥当なものだが、イデオロギー的に対極にある保守的新教徒が支持基盤の PES との連携は、AMLO 支持者からも反発を買っていた。

また、MORENA ブロック候補を確保するため、知名度のある地域リーダー、スポーツ選手、芸能人などの一本釣りを積極的に展開した。例えば、キンタナロー州で上院議員に当選したマリベル・ビジェガスは、PRD、PAN、PRI と党籍を変え、今回は PES 所属候補として立候補していた。

また、サッカー選手（ワールドカップ韓国戦のカニ挟みで有名）のクアウテモック・ブランコは 2015 年クエルナバカ市長（社会民主党）に就任し、2017 年 PES に移籍していた。モレロス州知事選に際して、MORENA ブロックの事前人気調査で 1 位となった。市長時代から政治的能力を疑問視されていたにもかかわらず、クアウテモックは津波的勝利をおさめ州知事に就任することになった。

AMLO は新興左派なのか？

今回の選挙の結果について、「権力のマフィア」グループによる 80 年間の支配、30 年に及ぶ新自由主義的略奪の末、やっとメキシコの人々が覚醒し、政治化したと評価することは楽天的に過ぎるだろう。怒りの投票、懲罰の投票があったことは明らかである。PAN、PRI に投票したが、現状は何も変わらなかった。そのことに疲れ果てた人々の票が、津波となって AMLO/MORENA に流れたことは否めない。

日本のメディアでは、AMLO/MORENA の勝利は「新興左派勢力」の勝利として報道されている。「左への転回」（英国 BBS）、「保守的左派」（ニューヨークタイムズ）など、欧米メディアも基本的には左派であると評価している。しかし、MORENA 結成の経緯、選挙戦中や当選後の政権構想を見るかぎり、左派と単純に評価することはできない。『サパタとメキシコ革命』の著者で歴史学者のジョン・ウォーマックは、AMLO/MORENA の勝利は PRI 体制内の「左派的部分」の勝利と指摘する。

AMLO 陣営が敵視する EZLN の評価も似たものである。8 月の全国 CIG 支援ネットとの会合で、ガレアーノ副司令は、国民革命党、メキシコ革命党、制度的革命党に続く「4 回目の変身」として MORENA 風の PRI（PRIMOR）が誕生したと皮肉っている。反資本主義を掲げない AMLO は、巨大資本に奉仕する「善良な管理人」かもしれないが、政権構想に左派的・進歩的な要素は皆無だと酷評した。

「第 4 次変容」の実態は？

副司令が言及している「4 回目の変身」は、AMLO の公約にある独立、改革、革命に続く大変革＝第 4 次変容（transformación）を揶揄したものである。AMLO は議員・公務員の報酬・経費の削減、行政の脱中央集権化、腐敗や不正の一掃などを公約しているが、緊縮財政と矛盾する巨大プロジェトがいくつもある。

『国家計画 2018-24』では、基盤整備事業として、メキシコ市国際空港、地峡部統合的開発回廊、半島横断観光列車（Tren turístico transpenínsular）、水資源自給体制、道路建設整備保全、地震復興事業、周縁地域のネット環境整備の 7 つが挙げられていた。最初の 3 件はペニャ・ニエト政権の構想を踏襲している。

半島のセルバ縦断のマヤ鉄道構想。左に AMLO の顔をした白像。白像は「無駄な箱物事業」を意味する。

議論を呼んでいるのは半島横断観光列車を衣替えしたマヤ鉄道（Tren Maya）構想である。当初、遺跡のあるパレンケとリゾート地カンクンをチェトゥマル経由で結ぶ南路線（900 ㎞）だけだったが、8 月にメリダを経由する北路線（600 ㎞）が追加された。これは頓挫したペニャ・ニエト政権の半島横断鉄道構想（336 ㎞）の焼き直しである。

総経費 1,500 億ペソの多くは民間投資、残り経費の半分は半島部 4 州が負担し、国庫負担は少なく、既存の鉄道軌道や道路の活用によって環境破壊は最小限となるので、事前協議は不必要としている。しかし、計画路線周辺の先住民共同体は、事前住民協議の実施を強く要求している。他の二つの継続開発案件でも住民協議の要求は起きている。

マヤ鉄道と同時に発表された南東部諸州の 20 万 ha 植林計画に関しては、アロンソ・ロモ所有のバイオ企業への利益提供（植林苗などの購入）が見え隠れしている。同じことは、周縁地域ネット環境整備事業における大富豪カルロス・スリム所有の電話通信企業との関係についても言える。

AMLO にサプライズを期待すべきではない

これは大統領府長官就任予定のアロンソ・ロモの言葉である。2007 年以降の「麻薬戦争」にともない深刻化した暴力と人権侵害の状況への対応、メキシコに染みついた制度的腐敗の問題、「破産状況」にある国家財政、米国トランプ政権との関係など、AMLO 政権が直面する課題は山積みである。

不要経費削減、公共投資拡大を公言してきた AMLO は、これらの課題への対応については何ら明確にしていない。『国家計画 2018-24 年』、選挙後の AMLO や MORENA の議会での動向を見るかぎり、新政権にあまり「大きな変革」を期待することはできないだろう。

コロンビア

和平合意から２年、紛争下に生きてきた先住民族の現在

柴田大輔

南米コロンビアで、反政府ゲリラFARCと政府間の和平合意が結ばれてから２年、またFARCの武装解除が完了してから１年が経つ現在、かつての紛争地帯では情勢が不安定化する地域が多数見られる。

各地で、総数1,200人あまりといわれる元FARC構成員が和平プロセスから離脱し、新組織を結成、武装活動を再開させている地域がある。また、FARCが抜けた空白地帯では複数の麻薬組織が活動を活発化させている。さらに今年8月、和平合意の見直しを掲げるイバン・ドゥケ氏が新大統領に就任したことで、「和平」の先行きに不安が広がっている。

同国南西部、先住民族アワの人々が暮らす地域の一つであるマグイは、かつてFARC部隊の一つ「マリスカル・スクレ機動部隊（のちに「戦線」に昇格）」が拠点を置いたことから、政府軍の激しい攻撃にさらされてきた。

私がこの地域を初めて訪ねたのは2013年。以降、毎年訪問を繰り返してきた。今年１月と、６月から７月にかけて同地を訪問すると、ここでも情勢が不安定化しつつあることがわかった。

１　FARC活動地だったマグイの歴史

今年１月、マグイを10ヶ月ぶりに訪ねた。同行してくれたのは、以前から交流を持つ地域リーダーのホセさんだ。彼は、現在63歳の男性で、ここで育った女性との結婚をきっかけにマグイに移住し40年が経つ。思慮深さと溢れるユーモアが人々を引きつけている。

山道を歩く彼の足取りは年齢を感じさせないほど軽い。マグイへは、僕の足で１時間半ほどかかる急な坂道を登らなければならない。そこをホセさんは40分ほどで歩いてしまう。

アワ民族の地域リーダーのホセさん。久々の再会に、親族を巻き込んで酒宴を開いてくれた（2018 年 7 月）

汗だくになりながら坂道を登りきると、眼下の谷間から吹き上がる風が気持ちよく熱を冷ます。

私が初めてマグイを訪れたのは2013年２月。この時もホセさんの後をついて山道を歩いた。当時はまだFARC部隊のベースキャンプがマグイにあり、この地域一帯がFARCの影響下にあった。

山道の土手には、不自然に掘られた小さな穴が数十メートルおきにあった。この穴についてホセさんに尋ねると、「政府軍の侵入を防ぐため、ここにFARCが爆弾を仕掛けるんだ。政府軍が近づき緊張が高まると、夜間の外出が禁止され、午後６時から朝６時まで爆弾が仕掛けられる」と説明してくれた。

爆弾から伸びるケーブルを、道を横切るように地面に這わせ、そこに足を引っ掛けると爆発する仕組みだった。朝、撤去される前の爆弾で犠牲になった住民も多数いると聞いた。

マグイではこの爆弾や地雷の他に、ゲリラ、軍の双方から、互いに敵対する組織との関係を疑われて迫害される住民が相次いだ。密告などを疑われ誘拐された住民も数多い。その多くが後に殺害されたとされているが遺体は見つかっていない。

高まる緊張、日常化する戦闘から、2006年には、当時、５つの集落に暮らす300家族あまりの住民の約９割が避難民として山を降りた。

２　平和を実感した1月のマグイ訪問

和平合意とFARC武装解除を経た今年1月の訪問時には、地域からゲリラも政府軍もいなくなり、マグイの日常から銃が消えていた。この地に始めて本格的にゲリラが入ったのは、1990年代半ばのELN（民族解放軍）だった。銃のない日常は、それ以来実に20数年ぶりとなる。山に戻る人々も中高年を中心に増えだし、「平和」を実感できる雰囲気が漂っていた。

この時、マグイで大きなお祭りがあった。その中で行われたミサを取り仕切ったのが、1990年代後半からの十年間この地域に赴任していたイバン神父だ。彼は現在、他の土地に赴任しているが、ホセさんの誘いに応じて祭りに参加した。

彼はホセさんと二人三脚で地域発展に尽力した人物だ。住民の先頭に立ち政府に対して抗議行動を起こすなど活発な住民活動も繰り返した。それが政府の反感を買い、当地がゲリラの活動地域と重なっていたことから、住民をゲリラシンパとみなす政府軍、政府軍と共闘関係にあった民兵組織から敵とみなされ、民兵に拉致され殺害されかけたことがある。

イバン神父はミサの中で、戦争で亡くなったマグイの住民の名を一人ずつ読み上げこう言った。「もう暴力はたくさんだ。戦争はたくさんだ。もう二度と、誰にも私たちの生活を犯させてはいけない」

ミサに集まった住民のほぼ全てが避難民となった経験と、犠牲となった家族を持っていた。政府軍とゲリラという外部の人間たちの争いに翻弄された過去を振り返り、沈黙の中で神父の言葉に耳を傾けた。ミサの後は、朝までお祭りとなった。飲みきれないほどの酒を飲み、音楽に合わせて踊った。

私はこの日までに何度もマグイを訪ねていたが、これまでは地域を一人で歩くことはできなかった。なぜなら、軍隊やゲリラ兵士に遭遇すると、その場で彼らに、住民でない私が何者なのか説明しなければならないからだ。

私に説明する力はなく、ゲリラ、軍に対し、双方にとって私が敵ではないということを住民が説明しなければならない。私一人の不用意な行動が、住民にとって危険な事態を招くことにつながりかねなかった。

この不自由さに加え、マグイでは頻繁に銃声や爆弾の破裂音を聞いていた。何か音が響くとその度にドキッとする。だんだん慣れてきたように思っていたのだが、日本に戻ってきて振り返ると、無意識に緊張を強いられていたことにいつも気がついた。

地域に軍事組織がいないことが明白になったことで、どこへでも自由に歩くことができ、どんな音が鳴っても命に関わることがない。それによってこんなに心が軽くなり、安心できるものなのかと改めて実感した。これが「平和」というものなのだと僕は思った。

３　６月の再訪時に感じた治安の悪化

しかし今年６月にマグイを訪ねると状況は変化していた。一旦、非軍事化された地域に再び政府軍が展開し始めていたのだ。５月にはマグイにもキャンプを張っていたと聞いた。理由は、マグイから直線で20kmほどのエクアドル国境近くで活動を継続するELNと、FARCが抜けた空白地帯で勢力を伸ばす麻薬組織に対する警戒だという。

ホセさんは「しようがない。でも、政府軍は以前と変わった。FARCがいなくなったことで私たちに銃を向けることはもうしない（以前は住民をFARCと同一視したが、今はFARCとの関係を疑う必要がなくなったため）。私たちも彼らを信用する」と、現状を納得しようとしていた。

マグイの地域会議に参加するホセさん。この日、乱れている治安のことなど、今後の地域運営について、話し合われた（2018 年 7 月）

ただ、変化はそれだけではなかった。地域の治安が悪化したのだ。マグイでは、これまでありえなかった外部の人間による強盗事件がおきた。覆面で銃を持つ集団が民家に押し入り金品を奪っていったのだという。さらに、マグイの自治組織に対し「税金」の支払いを要求する脅迫状が届いた。差出人は元FARC構成員だといわれたが、実態はわかっていない。

マグイの隣にベガスという同じくアワ民族の居住地区がある。そこでも、5月には「税金」を払えという脅迫が届き、それを突き返した商店主が殺害された。

かつてFARCは、土地や資源を搾取しようとする企業や政府軍や民兵組織などの外部者から農村を守るという「大義」のもと、個人商店も含め、場所によっては企業や行政機関など固定収入のある人や団体から「税金」として収入の規模に応じた金銭の徴収していた。それが、FARCがいなくなると、同じ方法で金を巻き上げる違法グループがのさばり始めたのだ。

アルタケルという近隣地区でも、商店主に「税金」を納めるよう脅迫状が届き、それを無視した店主の元に銃を持つ集団が押しかけるという事件が起きた。

こうした犯罪者は、大きな組織ではなく、数人から数十人の規模のグループが複数存在するといわれる。そこには、以前FARCに関わっていた人物も含まれているという話もあった。FARCという大きな組織がいた時は、まがいなりにも一定の秩序が地域にあったのが、そのタガが外れ治安が乱れ始めた。

ゲリラ活動地は、治安機関などの政府機関が不在の地域が多かった。政府が関心を持たない土地だったという見方もある。そこに入ってきたのがゲリラだった。特にFARCは、前述したように外部の人や組織の自由な出入りを阻害していた。また、地域の内側に対しても、住民に対して盗みや殺人など禁止事項を定め罰則を設けた。それにより政府不在の地域に一定の秩序をもたらしていた面がある。住民はFARCを指し「Ley（法）」と呼ぶことがよくあるのはこのためだ。

和平後、それまで秩序のもととなっていたFARCが消滅したが、政府不在という状況は変わらない。武器を伴う急激な治安悪化に対して、住民の自治能力だけでは対処できなくなっている。

4　治安悪化の背景

なぜ、武装組織が活動し続けているのか。その背景に、麻薬の原料としてのコカ栽培がある。国連薬物犯罪事務所（UNODC）によると、世界最大のコカイン生産国であるコロンビアでは、政府の摘発などで、コカ栽培面積が2013年には4.8万ヘクタールまで減少した。コカ栽培面積はその後増加に転じ、2017年には17.1万ヘクタールへと増えている。マグイが位置するナリーニョ県は国全体の27パーセントのコカ栽培地が集中し、特に山岳地帯や太平洋沿岸部など、開発が遅れる産業のない地域で広く普及している。

FARCはこれまでコカの流通に対し税金をかけ、資金を得ていた。活動を活発化させる大小の犯罪組織は、FARC消滅によって空白化した流通網やコカ栽培地を奪い合っている。

5　太平洋岸地域の現状

マグイから150㎞ほどの距離に太平洋岸に位置するトゥマコ市がある。ここは、ナリーニ

ョ県の中でもさらにコカ栽培が集中し、国外への麻薬の密輸港であることから、現在６つの犯罪組織が支配権をめぐって抗争を繰り返している。そのうち３つは元FARC構成員によるものだとされる。

元FARC構成員による組織は、2017年の武装解除に応じなかった人々による組織と、武装解除に応じたがその後再武装した人々による組織がある。前者は、地域に敵対する麻薬組織がいる中で武器を置くことは、本人だけでなく家族などが危険にさらされ、さらに活動を継続できる麻薬に関する資金源があったことが背景にあるといわれる。後者に関しては、武装解除をしたものの、地域の経済状態は失業率が７割を超えるほどに悪く、さらに治安は改善していないなかで、政府による社会復帰プログラムを離脱し、武装組織に合流したものが、130名ほどいるとされる。そこには、政府のノルマである、元FARC構成員に対する居住環境の整備の一年近い遅れ、資金提供の遅れなど、政府に対する不信も背景にある。

マグイ近辺で見られる犯罪組織がトゥマコで活動する組織とどの程度関連があるのかは、はっきりとはわかっていない。

犯罪が横行する地域は、これまでゲリラの活動地と重なっている。そこは未開発地であり、基幹となる産業がない地域だ。経済的な遅れが、ゲリラと住民を結びつけていた。コカ栽培についても、産業がなかったためほぼ唯一の換金作物として普及した。そこに今、FARCという大きな「秩序」が消滅し混乱する地域情勢の中で、非合法武装組織が資金源としてコカ栽培地を抑えようと争いだしている。

６　マグイの課題

ホセさんに現状について尋ねると、力を込めてこう答えた。

「自分たちは、もうこの土地から離れるわけにはいかない。私は政府を信用する。問題はあるが、FARCがいなくなったことで、以前のように戦争の恐怖の中で暮らすことはなくなった。アワ民族同士で力を合わせ、外部の友人たちの協力を得ながら、一つの大きな家族としてこれからもこの土地で生きていかなければならない」

ただ今後の問題の一つとして、著しくなる世代間での価値観の違いがある。紛争によって避難民化した際に、大多数の住民が町に投げ出された。近年マグイに戻る人が増えつつあるが、籍はマグイに置きつつも実際の生活は山間地のマグイではなく、町に拠点を置く住民が多数見られる。特に若い世代は町での生活が長くなり、そこに仕事を持ち子どもを学校に行かせている。山での自給自足的な暮らしとあまりにも生活の姿が離れてしまっている。そうした住民は籍のあるマグイの地域活動に協力するが、山に戻るのは、残した農地での播種や収穫など仕事のためとなっている。以前のように、皆が同じような生活をし、同じ問題を共有しながら将来を見据え行動することが難しくなりつつある。

市街地に暮らす住民も、山間部に暮らす住民も、治安と、その根底にある経済、社会環境という共通の問題に直面している。しかし、紛争がきっかけとなり結果的に多様化した人々の生活環境と価値観の変化によって、描く将来像に相違が生まれ始めている。「武力紛争」という大きな障害が去ったものの、地域住民はまた新たに生まれた複雑な問題に向き合わなければならなくなっている。

避難民化した住民の帰還が進んでいるが、街と山で二重生活を送る人が多くなっている（2018 年7月）

メキシコの麻薬戦争の真実　行方不明の家族を探す人々

ルシア・ディアスさん招聘イベント ご協力ありがとうございました！

山本　昭代

この８月半ばから９月末まで、首都圏と関西（京都、大阪）の数カ所において、「メキシコの麻薬戦争の真実　行方不明の家族を探す人々」として一連のイベントを行いました。ベラクルス州の行方不明犠牲者家族の会「ソレシートの会」代表のルシア・ディアスさんの講演会、ドキュメンタリー映画『ある捜索の記録』の上映会、インスタレーション「記憶の足跡」展示などを行いました。また、東京だけでしたが、演劇グループ、セロ・ウァチパによる劇の上演も行いました。

じつに盛りだくさんでしたが、おかげさまで、無事すべてのイベントを滞りなく終了することができました。また、いくつかのマスコミにも取り上げてもらいました。

メキシコのいまの悲惨な現状をより多くの日本人が知るよい機会を提供することができたのではないかと思います。RECOM 会員の皆さんには、たいへん世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

一連のイベントの資金を賄うため、6 月から 7 月末まで、クラウド・ファンディングを行いました。目標額の 80 万円が本当に集まるのか、正直なところ、ハラハラ、ドキドキで、心臓に悪い日々を送りました。多くの人たちが問題意識を共有してくださり、資金を提供してくださって、無事に満額達成することができました。出資してくださった方々、本当にありがとうございます。

クラウド・ファンディングのホームページに改めて詳細は掲載しますが、当初の予想以上に出費がかさんでしまいました。レコムからの援助を入れても、当初予定していたルシアさんの団体への寄付 30 万円を 20 万円とせざるをえなくなりました。その金額自体は大きくはありませんが、ルシアさんの団体は資金管理がしっかりしており、有効に活用してもらえると思います。

ＮＨＫふれあいホールギャラリーにて。ルシアさんの娘でドイツ在住のジナさんも自費で来日。講演会ではルシアさんの助手を務めてくれた

ルシアさんの日本滞在中は、例年にない猛烈な残暑が続き、体調が持つか心配でした。しかし、ルシアさんは、予想以上に精力的で、最後まで疲れを見せず、夜遅くまでのイベントでも力強く語り、あらゆる質問に的確に答えてくれていました。

９月 3 日の大阪でのイベントの翌日には、超大型台風が関西を直撃しました。しかし、寸前で関西を脱出することができたのは、運が良かったとしか言えません。

ＮＨＫふれあいホールギャラリー
（8 月 27 日～9 月 2 日）

ルシアさんは日本に多くの友人や支援者を得て、感謝の言葉を残して、9 月上旬にメキシコに帰って行かれました。

急きょ集めた古着も好評でした。インスタレーション「記憶の足跡」で展示する靴を入れて持ってきていただいたスーツケースに古着を詰めて、ルシアさんに持って帰ってもらいました。それらの古着は、ベラクルスの「ソレシートの会」で運営する古着屋で売り、会の運営資金にしてもらいました。

各地で行ったルシアさんの講演内容を簡単に要約し、以下に紹介します。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

ベラクルス州はメキシコ東部・メキシコ湾岸に拡がる州で、農業と石油産業が盛んな、国内有数の豊かな州である。しかし現在までの３代の州知事は「ナルコ知事」と呼ばれ、麻薬密輸組織と癒着していた。

メキシコの治安は悪化し、この間に何万人もの人々が命を落とし、何千人もの人が行方不明になっている。警察や軍など当局は、犯罪組織と共犯関係にあり、麻薬戦争を口実にして、殺人でも拉致でも、自由自在にできる立場にある。

失踪事件には、国家機関が関係した「強制失踪」と、民間人の手による失踪があるが、メキシコでは大多数の事件が、警察官などがかかわっている「強制失踪」である。

しかし、当局は捜査をほとんどせず、被害者も脅迫を受けるなどする可能性から届け出をしないケースが多い。メキシコでは、犯罪の99%が裁かれることがないという公的な数字が出ている。

「ソレシートの会」では、行方不明者の家族から DNA 鑑定のためのサンプル採取する作業を州内各地で行っている。警察や役所などへの不信感が強いため、会場としては教会などを利用している。

そうした会場に来た家族のうち、実に 75%は警察への届け出を行っていなかった。実際、警察に行っても、男性の場合なら、「犯罪にかかわったせいだ」と決めつけられ、若い女性の場合は、「売春をしていたのだろう」などと言われてしまう。被害者が加害者化されてしまうのだ。

「国連強制失踪者デー」の講演会
慶應三田キャンパスにて（8 月 30 日）

「国連強制失踪者デー」の講演会

一般市民も、当局のそのような言説を鵜呑みにしている。正直に働いて暮していれば、犯罪などに巻き込まれることはない、と信じている。悲しいことに、ルシアさん自身も、そう思い込んでいたのである。

しかし、実際はそうではなかった。5 年前の 2013 年、ルシアさんの息子ルイス・ギジェルモさんは、突然、拉致・誘拐されてしまった。当時 29 歳で、ベラクルス州でイベント会社を営む実業家だった。麻薬とも犯罪ともまったく無関係だった。

しかし、自宅で病気のため寝ていたところ、何者かが侵入し、拉致され、身代金を要求されたのである。要求された身代金を支払い、所有

していた自家用車やバイクまでも引き渡したが、息子は帰ってこなかった。

ルシアさんは、絶望のなか、あちこちの捜査当局を回ったが、どこも動いてくれなかった。同じ立場の女性たちと出会い、当初は 8 人で「ソレシート」の会を立ち上げた。ネットを通じて 2 か月で 40 人が集まり、今日では、ベラクルス市やコルドバ市など州中部を中心に約 300 人を抱えるまでになった。

「ソレシートの会」の活動内容は、記者会見などを通じて政府に圧力をかけること、強制失踪者法の制定などのために働きかけること、そして行方不明者の捜索である。

行方不明者の捜索は次の 2 つのレベルで行っている。ひとつは、生存者の捜索で、刑務所やリハビリセンター、病院などを回って行っている。もうひとつは、死者の捜索で、遺体安置所や公営墓地における遺体の確認、そして秘密墓地での発掘作業である。

SNS を通じて、行方不明者に関する情報を流し、拡散を呼びかけている。また、毎年 5 月の母の日には、ベラクルス市で大規模なデモ行進を行っている。さらに活動のための資金集めも重要な仕事である。祭りの会場やビーチに出店を出し、食べ物を売ったりするとともに、寄付してもらった古着を売る店舗を 3 つ運営して資金を得ている。

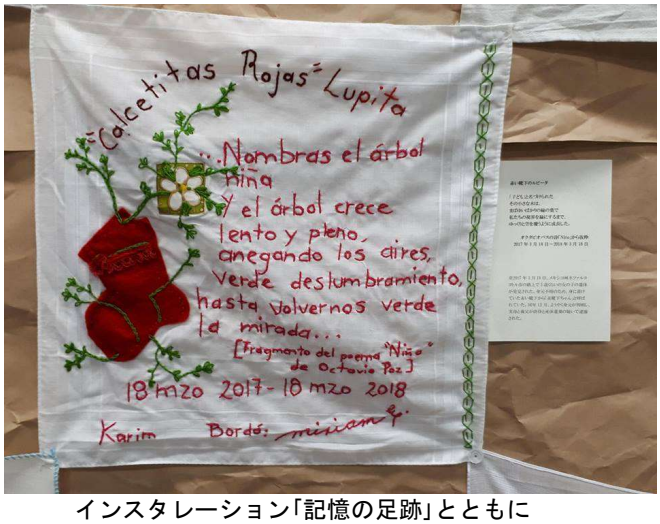
「ソレシートの会」は、2016 年 8 月から、ベラクルス市郊外の住宅地「サンタフェの丘」の近くの土地で、秘密墓地の発掘を行い、2 年間で 295 体の遺体が発見された。秘密墓地は、警察や軍が 24 時間監視をしているベラクルスの港湾地区に隣接し、住宅地がすぐそばという場所に立地している。当局の関与なしにはあり得ない話である。現場は非常に気温が高く、ときには有毒なヘビが出るなど、作業は容易ではない。このほかに、コルドバ市では、2 つの井戸から 20 体の遺体が発見されている。

国際的な民間団体や外国政府が、メキシコが直面している危機的な人権状況について情報を得ていることは非常に重要である。メキシコ政府が問題を無視し続けるのをやめ、行方不明者問題を解決するために真剣に取り組み、責任者を処罰するよう、国外から圧力をかけてもらいたい。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

NHK ふれあいホールギャラリーで展示された
自分の靴を手にするルシアさん

NHK ふれあいホールギャラリーでの設営



インスタレーション「記憶の足跡」とともに
展示された「平和のための刺繍」

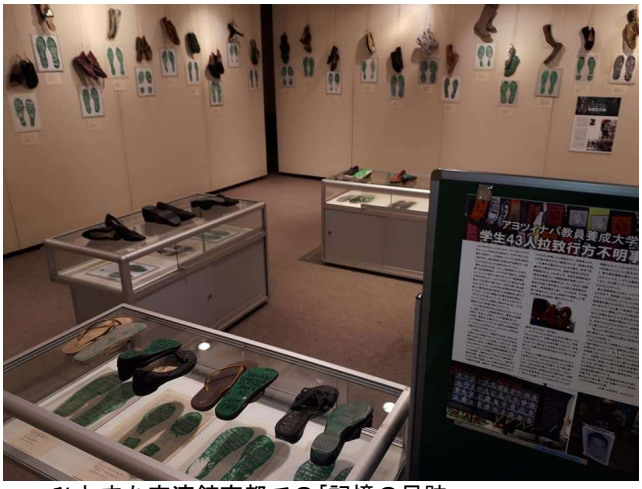
東京で平日（8 月 30 日）の夜間に行われた講演会では、会場が 200 人収容と広すぎることもあって、空席が目立ってしまいました。しかし、そのほかの会場では、ほぼ満席状態でした。会場から多くの質問が寄せられ、時間内にすべて答えることができないほどでした。

そのなかでも、各地の会場で重複して寄せられた質問が、「日本人に何を期待するか？」というものでした。この質問に対して、当初、ルシアさんは、「メキシコの人権状況の実態を知って、日本からメキシコ政府に圧力をかけてほしい」と答えていました。しかし、彼女の滞在最終日が近づくにつれ、「DNA 鑑定のための技術者も薬品も不足している。日本から支援してほしい」「メキシコでの人権侵害を問題化するよう、代議士などに働きかけてほしい」など、期待することが具体化してきました。

どのように実現できるのか、宿題を残されてしまいました。会員の皆さまのお知恵を拝借したいと思います。

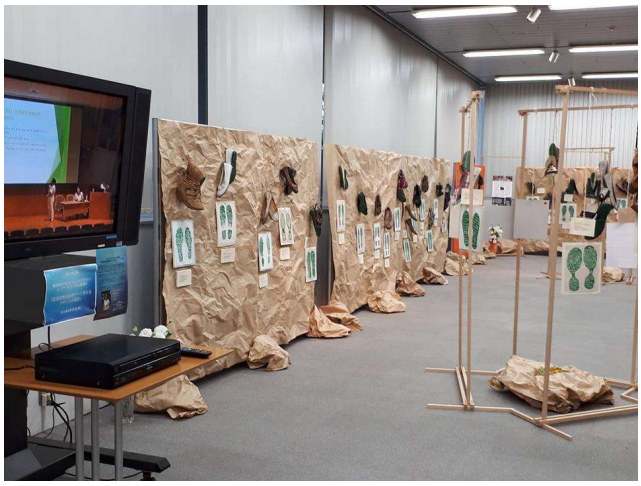
NHK ふれあいホールギャラリーで「記憶の足跡」の受付をしていたとき、非常に熱心に見て回り、何枚も写真を撮っているひとりの少年がいました。気になって話しかけると、高校 2 年生で、以前ユーチューブでメキシコ麻薬組織のビデオを見たことがあったという。しかし、実際の犠牲者のことを知って強烈なショックを受け、自分に何ができるかと考えている、と話してくれました。

地球の反対側で起きていること、しかも日本人の感覚からは現実離れし過ぎている暴力的な現状を理解すること自体、容易ではないのが事実です。それでも、この少年のように、メキシコの人々の苦痛に初めて触れ、何とかしなければ、という気持ちになってくれた人がいたことで、今回の一連のイベントを実現した意義があったと実感しています。



ひとまち交流館京都での「記憶の足跡」
インスタレーション展示（9 月 4 ～10 日）

ひとまち交流館京都での設営を終えて



慶應日吉キャンパスでの「記憶の足跡」
インスタレーション展示（9 月 25～28 日）

慶應日吉キャンパスでの設営を終えて

連載（第 67 回）ラ米百景　　伊高浩昭（ジャーナリスト）

クーデターから 45 年、傷口疼くチリ

チリは 2018 年 9 月 11 日、陸軍司令官アウグスト・ピノチェーらが決行したゴルペ（軍事クーデター）の 45 周年記念日を迎えた。1973 年のこの日、ニクソン米政権に支援されたチリ軍部と財界など保守・右翼勢力は決起、サルバドール・アジェンデ大統領の人民連合（UP）社会主義政権を倒した。大統領は、戦車部隊に包囲され、戦闘機に爆撃され炎上するモネーダ宮（大統領政庁）に立て籠もり、しばし抵抗した後、執務室で「いつか必ず民主の大道が開く」とラジオインタビューで言い残し、自害した。

民主は 1990 年 3 月に回復し、最近の 4 つ政権は中道・左翼政党連合のミチェル・バチェレー前大統領（現・国連人権高等弁務官）と、富豪の財界人で保守・右翼連合のセバスティアン・ピニェーラ現大統領が 2 期ずつ分け合っている。このことは、軍政終了時に 40%だった貧困率が 20%以下に落ち、経済発展が調整期に入った状況の下、1971 年の大統領選挙でのアジェンデ当選に始まる国民の思想的分断が投票に明確に表れるようになったことを示している。

ピニェーラは 1 期目の 2013 年、ゴルペ 40 周年記念日に際しゴルペを支持し軍政に参加した文民勢力を念頭に「受動的共犯」と指摘、ゴルペ以後の人道犯罪に加担した元将校らを優遇していた刑務所を閉鎖した。ところが今回、人権蹂躙はいかなる場合も許されないと前置きしつつ、「民主はゴルペで突然死したのではなく、以前から重病に罹っていた」と言った。この発言は「人権蹂躙は許されない」という前段と矛盾する。ゴルペ後の軍政下で 3,200 人が殺害され、4 万人が拷問された事実を軽視しすぎているからだ。

アジェンデ政権の流れを汲む社会党など中道・左翼から、大統領は「歴史から学んでいない恐ろしさ」を責められた。アジェンデの二女、故ベアトゥリスの娘で下院議長のマヤ・フェルナンデスは現政権と支持者の心無さに、「祖父（アジェンデ）を失った私は墓に参ることができる。これは重要なこと。それができない人々がいる。強制失踪させられた人々の家族はいまだに愛する肉親の遺体を探している」と敢えて口にした。

ピニェーラは「民主博物館」建設計画を 10 月発表する。ゴルペによる民主中断を過去幾つかの中断と比較して「相対化」し、独立 200 周年の 2010 年に開館した「記憶・人権博物館」に対抗させるのが狙いだ。ゴルペ後の「敗者の記憶」の展示に対し「勝者の記憶」で応じる構えだ。8 月に文化相を辞任したマウリシオ・ロハスは「記憶博物館はモンタージュだ」と発言した。ゴルペ後、多くの知識人や芸術家が国外に逃れ、チリに生じた「知性の空洞」は埋まっていない。それが思想状況に影響を及ぼしているのは疑いない。

ゴルペ 45 周年に当たり脚光を浴びた 2 つの出来事がある。一つは米経済学者らによる「ピノチェー軍政の経済的貢献」という「神話」を否定する動き。誌面の都合で説明は省く。もう一つは、2013 年にジャーナリスト、ラウール・ソールが暴露した軍部による「Z 計画」のでっち上げだ。その概要は、「プロレタリア独裁樹立を狙うアジェンデは（独立記念日翌日の）1973 年 9 月 19 日、自邸に軍部高官たちを招き会食。途中で座を外すや MIR（革命的左翼運動）の一団が乱入、機銃掃射で高官全員を殺害する」というもの。完全な虚偽宣伝だった。

軍政は「Z 計画」を蜂起の名分とし、多くの市民を拷問し殺害した。歴史家らはでっち上げ文書の策定に協力した事実を認めている。ソールは「計画はチリ史上最悪の血塗られた嘘だった」と指摘する。

スペイン国会は 2018 年 9 月半ば、国立墓苑「バージェ・デ・ロス・カイードス」（戦没者の谷）最奥部にある独裁者フランシスコ・フランコの墓地を他所に移す政令を可決した。内戦（1936～39 年）終結から 80 年目、内戦の評価が 2 分されてきたスペインはようやくここまで来た。フランコを崇拝していたピノチェーらのゴルペから 45 年、チリの傷跡は記憶に依然生々しく、加害者・被害者双方の心に疼いている。

連載(第 69 回) 音楽三昧♫ ペルーな日々

クンビア音楽の進化系

水口　良樹

9 月号のギター・マガジンで「トロピカル・スウィンギン」というテーマでペルーのチチャ（クンビア）が大きく取り上げられた。編集担当の方曰く、当初ちょっとだけ紹介ぐらいのはずだったが、担当ライターの宮田信さんの熱意に引っ張られる形でここまでの紙面をペルーにも割くことになったと。非常に嬉しいお話ではあるが、やはりペルーの音楽はまだまだ本当にマイナーなのだなぁと、改めて実感する次第。それでも、一度聴くと、なんだ、こりゃと、大きな紙面を割かざるを得ない。そんな魅力ある音楽であることも確かなのである。みなさん、もっともっとペルー音楽を楽しみましょう♪

というわけで、今回はギター・マガジンでの特集にあやかって、ペルーのチチャの歴史を少し紐解きつつ、今おすすめのグループも合わせて紹介していけたらと思う。クンビアはコロンビア生まれのトロピカル音楽で、1960 年代に広くラテンアメリカで流行し、今なお各地に土着化し、根強い人気を誇っている音楽だ。

このクンビアの大流行の中で、独自の成長をみせ、国民音楽と言ってもいいほどにまで自分たちのものとしてしまったのがペルーなのだ。1960 年代当時、ペルーは好景気の恩恵を受けて、中間層がアメリカのロックを徐々に演奏しはじめ、ガレージロックが盛り上がった時期でもあった。この、ペルーに新たに根付きつつあったロックの萌芽が、ペルーのクンビアに大きな影響を及ぼしていった。

そんな中ではじめにペルー風クンビアを確立したのが、エンリケ・デルガード率いるロス・デステージョスだと言われている。エンリケ・デルガードは、幼少期より天才ギター少年としてアンデス音楽バックバンドでプロとして演奏し、その後クリオーヤ音楽に転身、それからメキシコのランチェーラやガレージロックなどを経てクンビアにたどり着いているので、非常に多様なジャンルで第一線を戦った経験を全部クンビアにぶちこむことができた。このあらゆる音楽をぶちこんだ、というのが非常に重要で、このちゃんぽん性がペルーのクンビアを独自のスタイルへと進化させている所以だ(エンリケはベートーベンまでクンビアにしている)。

そしてアンデスからチチャの名前の由来となったアンデス・クンビアが誕生する。チャカロン・イ・ヌエバ・クレマとロス・シャピスを筆頭に、都市へと出てこざるを得なかった若者世代の郷愁と、それでも俺は都市で生き抜くのだという決意を込めて歌われたそれは、リマの住民にとって心地よいものではなかった。「泥棒の音楽」などと忌み嫌われつつも、それでも「チチャ」は確実にリマのアンデス出身者たちの心に定着していった。

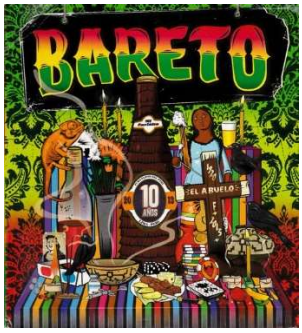
そしてアマゾンでも新たなクンビアが誕生していた。チチャがアンデスの音楽世界を大きく受け継いでいるのに対して、アマゾンのクンビアはロス・ミルロスとフアネコ・イ・ス・コンボを代表格に、トリップ系という意味でのアマゾンらしさを継承しているとも言えるだろう。

こうしたクンビア草創期の状況が、さらに北部よりエクアドル音楽なども取り入れた大編成のクンビア・ノルテーニャ、アマゾンを軸にテックスメックス(メキシコ系)からセルタネージャ(ブラジル系)まで取り込んだテクノクンビアなど、様々なスタイルのクンビアが登場してきた。まさに雑食ちゃんぽん性こそペルーのクンビア、である。貪欲に変化し続けながら商業音楽として一大ブームをペルー国内外で牽引していった。しかし、ヒットが出ると安定も生まれる。既定路線が生まれる。それを崩すのは常に外側、キワモノである。

前置きが長くなったが、それでは現在の新しいクンビアの第一線はどこにあるのか。それを見極めるのは非常に難しいが、私の独断と偏見で 3 つのバンドを紹介したい。そしてそれはクンビアの外側から、クンビアのちゃんぽん精神に引き寄せられるように集まってきた超実力派のバンドたちである。

まず紹介したいのは、今最も知名度も人気も高いバンドの一つ、バレトだ。バレトは2003

年から活動を開始したバンドで、当初は1970年代に活躍した伝説のバンド、ブラック・シュガーのようなブーガルー的な音楽志向を持ったバンドだったという。それが徐々にクンビア、スカ、レゲエ、ロックなどさまざまな音楽を取り込んでいきながら頭角を現し、2012年と 2016 年にはラテングラミーにノミネートされている。二枚目のアルバムではそのものズバリ「クンビア」をアルバム名として、ペルーの古典的クンビアをバレト風にアレンジして発表している。曲風もさまざまな試行錯誤を繰り返す中で変化していき、ラテングラミーにノミネートされた2012年の「ベス・ロ・ケ・キエレス・ベール」で、内外で大きな評価を得た、と言ってもいいだろう。



Bareto のアルバム
10 años (2013 年)

次に紹介したいのはバリオ・カラベーラだ。このバンドは知名度的には他の 2 つに比べれば少し落ちるが、曲はまったく負けていない実力派バンドだ。結成は2006年。どうやらメンバーは皆同じリマのブレーニャ地区出身らしい。当初はスカバンドとして結成されたが、徐々にクンビアやロック、レゲエなどを色濃く取り入れていくこととなった。下町をアピールしているからか、バンドメンバーは強面いかつい系が多く、ヒョウ柄のジャケットなども愛用しているという意味で、他のバンドとは一線を画する「ワル」な雰囲気を前に押し出している。ところが音楽になると少し甘いぐらいの声で政治批評や社会問題なんかを提起してくる、そのギャップがまたたまらない(もちろん、彼らお得意のスカ系超絶イケイケの曲も大きな魅力だ)。2015 年に出た最新作「クンビアメリカン・ロッカーズ」では、よりロック色を強調しながらも多様なジャンルを取り込み、さらにそれぞれの音楽性も洗練させるなど、まだまだ伸びしろを感じさせてくれる楽しみなバンドでもある。

Barrio Calavera
クンビアアメリカン・ロッカーズ（2015 年）

そして最後が、これまでにも数度紹介したラ・サリータだ。実は残念ながらこのバンドは今年はじめに解散してしまった。ファンだった私としては大きなショックだったのだが、メンバーの何人かが中心となって「サリータ・コロニア」という後継バンドがとりあえず生まれてはいるようだが、作曲も担当していたボーカルが抜けているので今後の方向性がどうなるのかはまだわからない。といきなりネガティブ情報から始まったが、例え終わってしまったバンドでもペルーのロック史に大きな足跡を残したと言えるペルーの誇るフュージョン・ロック・バンドがラ・サリータだった。

La Sarita の
トリブート・アル・ペルー(2016 年)

彼らを一躍有名にしたのがアンデスのハサミ踊りをロックにアレンジしたことだが、実はサリータの魅力はそのあまりに多彩なジャンルのバリエーションであり、バラードからロック、スカ、レゲエ、ワイノ、コテコテのクンビアからバルスまで何でもこなせるその技術とアレンジ力であった。そこにフリオ・ペレスの伸びやかな声がかぶさっていくと、なかなか何を歌っても、しびれさせてくれただけに、返す返すも残念！というか、今後の活躍に期待、としか言いようがない。2016 年の「トリブート・アル・ペルー」に収録されたチャカロン・メドレーなんて、もうかっこよすぎてぶったまげましたからね。

というわけで、今回は新しいクンビアの薫陶を受けた一押しバンド３つを独断と偏見に基づき紹介させていただきました。

ムネチャンのLA情報拾い読み・斜め読み（2018年10月）

小林　致広

（１）深刻化するLA諸国の食料不足

国連食糧機構（FAO）の報告書『世界の食料安全と栄養』（2017年版）によれば、LA諸国全体で栄養不足状態にある人口は約3,900万人と推定されている。LA諸国における食料不足率（栄養不足人口の比率）は、過去3年間は若干上昇気味だが、全体的には徐々に減少する傾向にある。唯一の例外がベネズエラで、この10年で食料不足率が10.5%から11.7%に上昇しているという。ベネズエラの貧困地域においては、多くの人が「犯罪者に殺されるか、飢えで死ぬか」という状況に曝されている。生きのびることを求めて、隣国のコロンビアやブラジルなどに脱出した人数は、国連の推計によると、2015年から現在まで、約160万人とされる。

食料を確保する上でベネズエラ以上に深刻な状態にある国は、ボリビア、ニカラグア、グアテマラ、ホンジュラスの4カ国である。しかし、ボリビアとニカラグアの2カ国の食料不足率は、この10年間で10%近くも改善している。その背景には、モラレス政権とオルテガ政権下における安定した経済成長があることは明白だろう。しかし、ニカラグアの場合、今春からの政治経済的危機の影響で、食料事情が悪化することが予測される。

それに対して、グアテマラとホンジュラスの2カ国の食料不足率は、この10年間ほぼ停滞していると言ってよい。政治・経済的不安定にともなう貧困だけでなく、2015・16年のエル・ニーニョによる大旱魃などで、中米地域の農業生産が50～90%も下落したことも大きく影響していると考えられる。

食料不足率の変化

	2017年	2014-16年	2004-06年
ボリビア	19.8	20.2	30.3
ニカラグア	16.2	17.0	24.4
グアテマラ	15.8	15.6	16.0
ホンジュラス	15.3	14.8	17.2
ベネズエラ	11.7	13.0	10.5

(FAO, Panorama de la seguridad y alimentaria y nutricional en LA y Caribe,2017)

出典：https://www.bbc.com/mundo/noticias-45503585fuego/

（２）LAで女の子（niña）であること

これはペルー、ニカラグアなど6カ国のメディアが作成した報告書の表題である。8篇の報告には、性暴力に曝された未成年女性が体験した不正義や絶望、勇気や粘り強さ、処罰を求める声が納められている。各レポートは読むのに必要な時間（分）が記されている。

ペルー・アマゾン地域マサンでは、未成年女性の3分の1がレイプの結果子供を産み、加害者の多くは親族関係者で告発・処罰されない状況が常態化している。ニカラグアでは、オルテガ大統領が再婚した妻の娘（11歳）をレイプした事件が取り上げられている。娘の告発は妄想として夫を擁護した妻ロサリオは、2011年の大統領選挙時、カリブ海岸域でレイプされた女児（12歳）が子供を産んだことを「奇跡、神の御印」と祝福し、レイプされた女児の体を再び政治的に利用することになった。

メキシコの報告では、ホンジュラスで最も危険な街サンペドロ・スーラで少年ギャング団の5人にレイプされた女性のメキシコ南部国境タパチュラの避難所での生活が紹介されている。グアテマラでは、2017年3月の児童養護施設「被昇天の聖母安全な家庭」での女児41名焼死事件が取り上げられ、事件以前から、養護施設の内外で少女たちが日常的に曝されていた過酷な暴力的な環境が紹介されている。

エクアドルでは、2009～16年の間に14歳未満の女児約1.7万人が子供を産んでいる。レイプされた未成年女性約3.3万人の8割は告発していない。コロンビアでは、近年のユニセフのキャンペーンなどで、都市部での若年妊娠率は徐々に減っている。しかし、海岸部カルタヘナの貧困地区では、依然として4分の1の女性が19歳以前に結婚している。

沈黙を強制されるレイプされ
子供を産む女児

出典：http://ser-nina.org/

（３）カリブ海岸の大量の海藻漂着

ビーチ・リゾートが観光商品となっているメキシコ・キンタナロー州では大量の海藻漂着が問題となっている。サルガソ海で発生した海藻は、海流に乗り、カリブ海の島々、メキシコ湾岸、フロリダ半島などに漂着している。同州の沿岸に大量の海藻が漂着する現象は 5 年前頃から顕著になっている。今年は同州の海岸線の5%以上に海藻が漂着し、景観が損なわれ、悪臭やハエなどが発生し、観光客だけでなく行政当局や住民も苦慮している。堆肥化などの有効利用がなく、回収した海藻を海岸に埋めている。

大規模な海藻漂着の影響は長期化し、海洋の気温上昇、潮流や風向の変化などが指摘されている。沿岸部での海藻繁茂は、レストランやホテルから出る有機栄養素が蓄積するためと指摘されている。海藻繁殖による水流悪化で、マハワル海岸ではロブスターが大量死し、日本向けロブスター輸出が打撃を受けている。

連邦政府は月額 6,200 万ペソの緊急基金を拠出し、市町村からの海藻回収作業への協力、民間企業からの機械・労働力提供を確保した。州政府は海藻回収の緊急補正予算 2.5 億ペソを申請し、州観光局は海岸清掃に当たる 7 企業、350 人と契約を明らかにした。海藻回収の緊急対策として実施される季節労働プログラムによって、450 人以上の女性・青少年が最低賃金で雇用されることになる。安価で若い労働力を確保したいホテル業者や観光業者にとっては労働力確保も頭の痛い問題となっている。

毎年 300 万超の観光客を受け入れてきた同州観光局は、ビーチへの大量海藻漂着という情報の SNS による拡散による観光客の大幅減少を否定している。しかし、ホテル協会によると、ホテル結婚式のキャンセルが相次ぎ、12 月までの予約も低調という。一方で、夏季の観光客の約半数は、ビーチ・リゾートではなく、内陸のセノーテやテーマパーク、遺跡観光など「エコツーリズム」を選択しているという。

砂浜海岸に漂着した海藻

海藻が大量漂着する海岸域

出典：La Jornada, 30/07/2018

（４）ペルー「七色の山」鉱山開発権撤回

今年 9 月、ペルーのエネルギー鉱山省はクスコ県ヴィニクンカ山群一帯の鉱山開発権の撤回を発表した。クシパタとピツマルカ地区にまたがるレッド･ベッド 2 鉱区（約 400ha）の開発権は、3 月にカナダの鉱山企業のペルー子会社ミンケスト・ペルーに認可されたばかりだった。半年余りで開発権が撤回された背景には、ヴィニクンカ山群が、マチュピチュやクスコについで多くの観光客を集める「聖地」となっていたことがある。

ヴィニクンカ山群は、「七色の山」として知られる。「七色の山」は、2011 年にユネスコの世界無形文化遺産に指定された「雪と星の祭コイヨルリテ」の舞台である聖山アウサンガテに至る巡歴路の途次にある。2013 年に米国の『ナショナル・ジオグラフィック』誌が、死ぬまでに訪れたい 100 の場所の一つに挙げた。そのため、多くの旅行者が訪れるようになり、2015 年 11 月頃から急激に観光客が増えたという。平日で 500～2,500 名、週末にはさらに多くの観光客が訪れ、クスコ県ではマチュピチュにつぐ観光地となっている。

5 月に鉱山開発権認可が判明すると、各方面からさまざまな反発が出た。クスコ県政府はアウサンガテ一帯を自然保護区に指定する計画を持ち、6 月には大統領も自然保護区に指定する意向を表明していた。全国観光協会は、中国の張腋丹霞地貌（通称、虹色の七彩山）に比肩できる重要なジオパークであり、鉱産資源ではなく観光資源として活用すべきと表明していた。こうした声を受け、6 月 16 日、ミンケスト・ペルー社は、「山域の文化・観光的空間の保全」に敬意を表して、鉱山開発権を返上することを表明していた。

「七色の山」に祈る先住民神官

登山者に馬を貸す地元住民

出典：https://www.nytimes.com/es/2018/05/04/peru-montana-arcoiris-vinicunca/
https://elcomercio.pe/peru/cusco/gobierno-anula-concesion-minera-montana-siete-colores-noticia-nndc-55

この夏から秋にかけて、大型台風が多数発生し、各地で甚大な被害が出ました。みなさんのところは大丈夫だったでしょうか。最近は世界各地で洪水、地震、火山の爆発など、災害が頻発しています。日本に来る台風も大型化して、レコムが参加する行事も中止になったり、日程が短くなったりしています。メキシコのルシアさん母娘を招いて行ったイベント『麻薬戦争の真実―行方不明の家族を探す人々＆インスタレーション「記憶の足跡」』でも、9 月初めの京都では、台風の影響が甚大でした。インスタレーションの初日は中止、しかも 2 日間は交通網が正常ではなくて、来場者がかなり減ってしまったかなと、残念に思います。それでも、来てくださった方々は、メキシコでこんなに激しい暴力や殺人事件が起こっていたなんて想像もできなかったと、かなりの衝撃をもって認識を新たにしてくださったようです。自然災害で、多くの人が命を落としていることや、理不尽な暴力で命を奪われる人がいることは、どちらもこの地球で起きていること。何とも言えない悲しい気持になりました。

大西　裕子

次回の「そんりさ」印刷作業は東京で、2019 年 1 月 12 日（土）

発送作業は関西で、2019 年 1 月 19 日（土）の予定です。

参加いただける方は、recom@jca.apc.org まで連絡ください。

Vol.164　闘う女性たちの集会	Vol.160 サパティスタ・芸術と科学
Vol.163　グアテマラ・帰還難民のムラの 20 年	Vol.159 グアテマラのアフリカ系
Vol.162　エルサルバドル　昔と今	Vol.158 コロンビア・和平の陰の暴力
Vol.161　コロンビア革命軍の最後	Vol.157 ニカラグア・ワスパンの今

メーリングリスト

レコムに入会（もしくは購読）すると、メーリングリストにも無料で参加できます。
入会したら、メールアドレス、自己紹介メールを添え、recom@jca.apc.org まで、ご一報ください。
メーリングリストに登録します。レコムの活動は会員のみなさんによって支えられています。

会員の種類

☆会員	：年　8,000 円	…会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆学生会員	：年　5,000 円	…会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆賛助会員	：年 10,000 円(一口)	…総会参加、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆購読会員	：年　4,000 円	…『そんりさ』の購読、メーリングリスト参加可

レコム連絡先
〒 616-0004 京都市西京区嵐山中尾下町 20-15
太田方
TEL 075-862-2556（留守電）
お問い合わせは、E-MAIL、手紙、もしくは
留守番電話にメッセージをお願いします。
ホームページ：http://www.jca.apc.org/recom
E-mail　：recom@jca.apc.org
Facebook　：https://www.facebook.com/recomsonrisa/

郵便振替口座：00110-7-567396
日本ラテンアメリカ協力ネットワーク
レコム口座　107 万 6624 円
グアテマラ基金　126 万 4151 円
(2018 年 10 月現在)

そんりさ（SONRISA）166 号
2018 年 10 月 13 日発行
日本ラテンアメリカ協力ネットワーク(RECOM)
定価　400 円